

有し相倚り相集まつて、自然界をして整然たる体系となさしむるものである。自然現象は、條理齊一にして、一度起りたる現象は、爾後是と事情を同じうする場合には、幾度も起るべきものとある。これ自然齊一律によるものである。自然齊一律が因果律と異なるは、必然的假定に非ずして、経験上に於て觀察せらるる事實に在る。現象の生起するは、整然たる否とにか、はらず、必ず原因を有するべきものなりとは、必然的に假定せざるを得ない所にして、そは因果律の先天的なるによるものである。而してその現象が現実にかつ齊一なることを発見するは、現実の觀察、経験によるものにして、必ずしも必然的假定ではない。

要するに因果律は同一のあり得べきことを決定し、且つ同一結果は同一原因を有するやも知るべからざることを想定せしむるのである。然るに自然齊一律は其の原因が其の特殊なる事物に於て存することの蓋然なるを決定し、特別なる類同、差異、一致、継続等の存する時は、同一なる関係を以て再び生起すべきことの蓋然なることを指示するのみでなく、其の原因は現象を表記する事物と連関する既知の原因にあることの蓋然なるを表示するのである。

三、歸納推理の規則

歸納推理にありては演繹推理に於けるが如くに、形式上の規則を明挙することとは出来な。演繹推理に於ては、前提の含む所より以上に至るべからざるもののであるが、歸納推理にあつて分量上、前提以上に及ぶことを許容するものがある。然し断案の主概念たる事項に關しては一定の制限がないわけではない。任意の前提からして任意の断定を下すことは出来な。そは一定の規則に従はざるべからざるものごある。されば歸納推理の規則は形式上の規則となとして、資料上の規則ごある。

第一則 各事例の相一致する事情は、本質的屬性に基づかねばならぬ。

第二則 各事例は必ず同一類に屬し、且その代表者たり得るものでなければならぬ。

方法論

第一章 方法論の意義及區分

一、方法論の意義

二、方法論の區分

第二章 探求的方法

第一節 觀察・實驗及び説明

一、觀察

二、實驗

三、説明

第二節 彙類及び枚擧

一、彙類法

二、枚擧法

第三節 因果關係

第四節 ミルの歸納的方法

- 一、契合法
- 二、差異法
- 三、與合差異法
- 四、共变法
- 五、剩餘法

第五節 蓋然量

第六節 臆說（假說）

- 一、臆說（假說）の性質
- 二、臆說の要件についてジエホンスの説
- 三、臆說の條件

第七節 檢證

- 一、檢證の意義及種類
- 二、資料的檢證
- 三、形式的檢證

四、定 理

第八節 探求法に關する誤謬

- 一、觀察の誤謬
- 二、概括の誤謬
- 三、想像の誤謬

第三章 統整的方法

第一節 定 義

- 一、類及び種
- 二、定義の性質
- 三、定義の種類
- 四、定義の條件

第二節 分 類

- 一、分類の性質
- 二、分類の方法
- 三、分類の條件

第三節 論證

一 論證の意義及性質

二 論證の種類

三 論據の選擇

四 論證の規則

第四節 因明の論法

一 古因明

二 新因明

第五節 真理

第六節 科学の分類

一 知識の系統

二 科学の分類

第七節 論證に関する誤謬

第一 推論の過誤

一 言語上の虚偽

二 資料上の虚偽
三 形式上の虚偽

(以上)

論理學答案用紙

No. 1

論理學答案用紙

No. 2

論理學答案用紙

No. 3

論理學答案用紙

No. 4

論理學答案用紙
No.5

論理學答案用紙
No. 6

論理學答案用紙

№.7

論理學答案用紙

No. 8

論理學答案用紙

No. 9

論理學答案用紙

No.10

昭和十五年四月十六日印刷
昭和十五年四月十九日發行

著作
所
權
肩

發
兌
元

東京市神田區
小川町三丁目

著作者
發行者
印刷者
印刷所

論理學ノ一卜
定價壹圓七拾錢

大島 豊

小島 清
東京市神田區小川町三丁目十番地

佐藤 春雄
東京市神田區神保町三丁目一番地

映文社
電話九段(四)二〇八〇番

小島書店
振替東京一六二九七七番

401
461

終

